

障害者の自立支援について

障害者に関わる団体、施設、事業所は全ての障がい者に対して自立に向けて何らかの取り組みが必要だと考えています。NPO法人活きるも当然活動として取り組んでいますが、生活訓練などの本格的な自立支援は資金的に難しいのが現状です。自立支援とは何かと言うと、究極の自立は障害があっても働いて収入を得て他人の力を借りずに自分の力で社会生活を営むことだと思います。しかし、我々の仲間は重度の障害を背負っていて、働くことはもちろん、自分の生活全般も他人の力を借りなくては生活できない人が多いのです。それらの人にとって自立とは何かを考えてみます。まず重要なのは彼らに係るスタッフの個別対応するための理解です。それぞれの身体機能や家庭環境、性格、家族の意見等を鑑み、そのニーズを把握し、そしてどのような支援が必要かのアイデアが必要です。

現在のNPO法人活きるにできる自立支援とは、関わっている仲間の状況を把握し、ソフト面で支援することだと思います。例えば、一般社会に接する機会が少なかった生まれつきの障害者には、社会ルール（良いことも悪いことも）を教えたり、責任ある行動・発言の訓練をすることがあります。また、病気や事故で中途障害を背負った人には、今の自分に自信を持てるどころや新たな能力と一緒に探したり、楽しみを見つけて残りの人生に希望を見つけるお手伝いすることだと思っています。

要するに社会の一構成員として、受身でなく能動的な人生を送るための支援をすることがNPO法人活きるの自立支援だと考えます。もちろん、決定能力のある当事者が勇気を持って積極的に自立のことを考えることは言うまでもありません。

私の家内の満理子は身体機能が全廃の上に重度の高次脳機能障害です。会話は普通にできますが記憶障害の上に意欲が全くなく、意思決定や要求を表現できません。満理子にとって自立とは正確な判断をして決定能力を取り戻し、意思表示が出来ることによって、家族以外の介護を受けることができることだと思っています。NPO法人活きるの活動に参加することによって脳へ大きな刺激となって少しずつですが改善に向かっています。

当事者が主体の活動は説得力は在るものの、実行力に欠けます。これらの活動を実現するにはボランティアの役割は重要で、私たち障害者への支援活動は当事者が知恵を出し、ニーズを発信して健常者のボランティア主体による運営が理想だと思います。